

事業所の概要表

(平成29年 6月 1日現在)

事業所名	今治市社協グループホームゆいの里															
法人名	社会福祉法人															
所在地	愛媛県今治市大三島町野々江2435-14															
電話番号	0897-74-1370															
FAX番号	0897-74-1377															
HPアドレス	http://www.imabari-shakyo.jp/caresupport/grouphome/yuinatosato.htm															
開設年月日	平成 17 年 7 月 11 日															
建物構造	☒ 木造 ☐ 鉄骨 ☐ 鉄筋 ☐ 平屋 (1) 階建て (1) 階部分															
併設事業所の有無	☐ 無 ☒ 有 (今治市社協小規模多機能ゆいの村)															
ユニット数	1 ユニット 利用定員数 9 人															
利用者人数	9 名 (男性 0 人 女性 9 人)															
要介護度	<table border="1"> <tr> <td>要支援2</td> <td>0 名</td> <td>要介護1</td> <td>0 名</td> <td>要介護2</td> <td>4 名</td> </tr> <tr> <td>要介護3</td> <td>4 名</td> <td>要介護4</td> <td>0 名</td> <td>要介護5</td> <td>1 名</td> </tr> </table>				要支援2	0 名	要介護1	0 名	要介護2	4 名	要介護3	4 名	要介護4	0 名	要介護5	1 名
要支援2	0 名	要介護1	0 名	要介護2	4 名											
要介護3	4 名	要介護4	0 名	要介護5	1 名											
職員の勤続年数	<table border="1"> <tr> <td>1年未満</td> <td>0 人</td> <td>1～3年未満</td> <td>0 人</td> <td>3～5年未満</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>5～10年未満</td> <td>3 人</td> <td>10年以上</td> <td>8 人</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				1年未満	0 人	1～3年未満	0 人	3～5年未満	0 人	5～10年未満	3 人	10年以上	8 人		
1年未満	0 人	1～3年未満	0 人	3～5年未満	0 人											
5～10年未満	3 人	10年以上	8 人													
介護職の取得資格等	介護支援専門員 3 人 介護福祉士 3 人 その他 (看護師(1名)、ヘルパー2級(5名))															
看護職員の配置	☐ 無 ☒ 有 (☒ 直接雇用 ☐ 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)															
協力医療機関名	大三島中央病院															
看取りの体制 (開設時から)	☒ 無 ☐ 有 (看取り人数: 人)															

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	40,000 円																											
敷金の有無	☒ 無 ☐ 有 円																											
保証金の有無	☒ 無 ☐ 有 円 償却の有無 ☒ 無 ☐ 有																											
食材料費	1日当たり 800 円 (朝食: 200 円 昼食: 300 円) おやつ: 食費に含む 円 (夕食: 300 円)																											
食事の提供方法	☒ 事業所で調理 ☐ 他施設等で調理 ☐ 外注(配食等) ☐ その他 ()																											
その他の費用	<table border="1"> <tr> <td>・ 居室電気代</td> <td>実費</td> <td>円</td> <td>・ 通院介助</td> <td>送迎・付添代規定の通り</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>・ 理美容代</td> <td>実費</td> <td>円</td> <td>・</td> <td></td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>・ 医療費</td> <td>実費</td> <td>円</td> <td>・</td> <td></td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>・ レクリエーション行事</td> <td>実費</td> <td>円</td> <td>・</td> <td></td> <td>円</td> </tr> </table>				・ 居室電気代	実費	円	・ 通院介助	送迎・付添代規定の通り	円	・ 理美容代	実費	円	・		円	・ 医療費	実費	円	・		円	・ レクリエーション行事	実費	円	・		円
・ 居室電気代	実費	円	・ 通院介助	送迎・付添代規定の通り	円																							
・ 理美容代	実費	円	・		円																							
・ 医療費	実費	円	・		円																							
・ レクリエーション行事	実費	円	・		円																							

家族会の有無	☐ 無 ☒ 有 (開催回数: 2 回) 過去1年間		
広報紙等の有無	☐ 無 ☒ 有 (発行回数: 6 回) 過去1年間		
過去1年間の 運営推進会議の 状況	開催回数	6 回 過去1年間	
	参加メンバー □にチェック	☒ 市町担当者 ☒ 地域包括支援センター職員 ☐ 評価機関関係者 ☒ 民生委員 ☒ 自治会・町内会関係者 ☐ 近隣の住民 ☒ 利用者 ☒ 法人外他事業所職員 ☒ 家族等 ☐ その他 ()	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

- .その人らしい暮らしを支える
 - (1) ケアマネジメント
 - (2) 日々の支援
 - (3) 生活環境づくり
 - (4) 健康を維持するための支援
- .家族との支え合い
- .地域との支え合い
- .より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【外部評価実施評価機関】 評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年6月26日

【アンケート協力数】 評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	9	(依頼数)	9
地域アンケート	(回答数)	9		

アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(= 1 ○ = 2 = 3 × = 4)

事業所記入

事業所番号	3870201195
事業所名	今治市社協グループホームゆいの里
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏 名	田坂 恒輝
自己評価作成日	平成29年6月7日(水曜日)

【事業所理念】※事業所記入	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】
「笑顔育むゆいの里」 ※自分らしさを大切に、その人の思いを共有します。 ※やさしさ、笑顔にふれあいながら、家族、地域とともに過ごしていきます。	○運営推進会議について、参加メンバーが固定したり、家族の参加が減ってきている。家族の運営推進会議に対する参加はもちろん、地域住民や他職種の方々への参加を呼びかけ、多方面からの意見を頂きながら、より良いサービスが提供できるようにしていく。 ⇒家族へ運営推進会議への参加の案内を行い、仕事や用事のない限り積極的に呼びかけを行った。時間や都合が合えば参加頂いたり、小中学校の先生に関しては、会への参加は難しかったが、別に意見やコメントを頂きながら、会の中で発表したり、学校としての行こうや方向性を確認し、ボランティアや研修の受け入れを行った。 ○外出支援について、利用者個々で行きたい所や懐かしい場所、見たい物等を確認しながら個別な外出支援を行っている。 ⇒今まで同様、住み慣れた地域への行事やイベント等の参加をはじめ、地域の方々をお招きしての、夏祭りやふれあいフェスタの開催をしました。この春、利用者さんとの日常会話の中で出た、「きれいな花を見に行きたいね」とみんなが声をそろえて希望があり、ご家族の方にもご案内をし、家族と一緒に日帰りの旅行に行きました。引き続き日常会話の中で、利用者さんの行きたい所や見たい物等確認しながら、個々に対応できるようにしていく。	外出前には鏡を見ながら自分で整えられるよう支援している。くしは、利用者が取りやすいように洗面台の低い位置に用意していた。 毎朝、新聞の季節感のある記事を話題にして会話を楽しむ時間をつくっている。テーブルや洗面台などには、利用者が季節の花を生けている。 毎月、利用相談が2～3件あり、地域の人の介護相談を受けている。法人の行う「ふれあいフェスタ」では、職員が介護相談を受けている。

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	・定期的もしくは必要時に個々にモニタリングを行い、生活に対する意向や暮らし方等について話し合っている。	◎		◎	昨年12月から、「〇〇さんの力、強さ、輝き探しシート」（私の輝きシート）を用いて、情報収集に取り組んでいる。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	・毎月カンファレンス等で、個々の利用者さんにとってどのようにケアしていくことが望ましいか等の検討を利用者主体に行っている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人（家族・親戚・友人等）とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	・面会時や家族会、電話やメール等で確認できる時には家族とも現在の生活状況や今後の支援に基づく本人の思い等の相談を行っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	・毎日あった事だけでなく、その人の思いや希望等があれば、本人の言葉で記録し、みんなが共有できるようにしている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	・出来るだけ利用者さん主体で検討していくことにしているが、稀に家族の思いが優先したり、職員の意向が強い時が見られる。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人（家族・親戚・友人等）から聞いている。	○	・なかなか本人に確認しても忘れていたり、本当かどうか分からない事は家族に確認したり、介護にかかわっていた方々に確認している。			◎	家族に、「私のくらしシート」を記入してもらい、好みのもの、得意なことなどの把握に取り組んでいる。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力（わかること・できること・できそうなこと等）等の現状の把握に努めている。	○	・新規利用者さんからは、事前に私の暮らしシートの記入を家族にお願いしている。日常生活の中から、個々に得意な事や苦手な事を私の輝きシートに記入し共有できるようにしている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	・毎月のミーティングで各担当者が前回のミーティングからの1ヶ月で気付いた事や利用者さん個々の変化について検討し合っている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。（身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等）	○	・毎日の表情や口調、行動の変化について、職員間で原因や要因について話し合っている。その前後にあった出来事や家族、他利用者さんとの関わり等について振り返り、考察している。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	・一人一人の性格やリズムに合わせて、声掛けの方法や誘導の仕方を変えている。しかし、その内容が集団生活を送る上で、個々の生活の流れが一様に流れている場面も見られている。				
3	チームで行うアセスメント（※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む）	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	・毎月のミーティングや、急を要する場合には連絡ノート等で情報の共有を行い、本人にとっての過ごしやすい物的・人的環境作りを検討している。			○	毎月のケアカンファレンス時に、アセスメントシートやケア記録から検討する項目をピックアップして話し合っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	・毎月のミーティング（個別カンファレンス）で、本人がより楽しく、安心して暮らす事が出来るように話し合っている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	・カンファレンスで出た意見や具体的方法について、実施した結果を連絡ノート等で職員同士で共有し、新たな課題が見つかった時には、カンファレンスを待たず、現場スタッフで検討し共有している。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	・毎日の記録を行うケア記録に、個々の目標や具体的なケア内容について記載し、常にその内容を確認しながらケアできるようにしている。				家族には、要望や希望を聞き取っているが、あまり出ないようだ。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	・定期的ケアマネが本人や家族と毎日の過ごし方や変化があった時に連絡し、具体的な解決方法について相談し、内容について連絡ノート等で情報の共有を行っている。	◎		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	・住み慣れた地域の祭りや行事への参加、現状維持・向上に向けた内容としている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	・家族との連絡は、最低2ヶ月に1回はお便りの連絡や遠方の方は電話等で、近況報告を行っている。地域の方とは、近隣住民との合同消火避難訓練や夏祭りなどを通じて交流を持ちながら、地域の一員として楽しい時間が過ごせる様にしている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	・日々の記録を行う「ケア記録」に、それぞれ個別の目標やケア内容を記載している。また、利用者ひとりひとりの得意な事や好きな事を記録した「私の輝きシート」も共有しながら支援している。			◎	ケア記録用紙に介護計画の目標やケア内容を記入している。 毎日、その日のリーダー職員がケア内容が実践出来たか○△×で評価を行い、ケア記録に記入している。 時系列のケア記録にエピソードなどを記入している。 言葉や行動についての気付きは、輝きシートに記入しており、口頭でも申し送りを行っている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	・個々のケア内容については毎日評価し、長期・短期目標について毎月担当者が月間評価を行い、具体的支援内容に変更がある場合には、カンファレンス等で検討している。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子（言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等）や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	・ケア記録に個別に毎日の様子を記録している。その時、特別変わりがあった事や気付き、他スタッフに伝えたいこと等は具体的に記入するようにしている。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	・毎月のカンファレンス記録や私の輝きシート等に、個別に具体的な様子や経過、職員の気付き等を記録している。			○	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	・計画作成担当者が毎日のケア記録に記載しているケア内容の期間について確認し、必要があれば見直しや修正を行っている。			◎	6ヶ月に1回見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	・利用者個々に担当者が行う月間評価と毎月のカンファレンスで、毎月1～2回は具体的な見直しを行っている。			◎	月1回のケアカンファレンス時に、利用者個々の現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	・現状に応じた具体的なケア内容について、随時見直しを行い、連絡ノートで共有し、即実施しているが、実施に即した計画の作成は間に合っていない。月単位でケア内容については見直しを行っている。			○	退院時などに見直しを行うことになっているが、この一年間では事例がないようだ。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	・毎月1回(第4月曜日)はミーティングの日とし、スタッフ全員集まってカンファレンスや必要な検討を行っている。緊急時には、勤務中のスタッフと相談し、必ず連絡ノートで情報共有している。			◎	月1回全員参加でミーティングを行っている。緊急時は、勤務者で話し合い連絡ノートに決定内容を記入している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	・項目毎にみんなの意見を聞いたり、具体的な内容については理解できているかどうかを確認しながら進んでいる。またカンファレンスでは担当者が進行やまとめを行っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	・特段の理由が無い限り、毎月第4月曜日をミーティングの日と決め、原則全員参加とする為、事業所内事務所で9:00～11:00の間で開催している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	◎	・毎回職員が交代で、当日のミーティング内容の議事録を記録し、参加できなかった職員には、その議事録を確認してもらっている。			◎	欠席者には、ミーティング録を印刷して渡し、さらに管理者が口頭で伝えている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	・連絡ノートを情報共有の基本とし、みんなの同意を求める内容や集計を必要とする内容、また、急を要する事項については電話やメール等を利用し、随時確認を行っている。			◎	連絡帳に記入しており、確認した職員はサインをするしきみをつくっている。全員のサインが揃ったか管理者が管理している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	・連絡ノートや閲覧文書については、出勤し業務に入る前に必ずチェックするようにしている。また確認した場合には、サインなどで閲覧チェックを行っている。	◎			
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	・一日の流れの中で、本人のできることを中心に声掛けしたり、一緒に行っているが、その日の気分や調子によっては出来ない事を無理強いしたりしない様に、希望に応じて対応している。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	・一日の生活の中で、個別レク以外で外出や集団レクについては、参加の可否を確認したり、行きたい所・食べたい物等を聞きながら、意向の確認を行っている。			○	外出や入浴など無理強いせず、本人からの返事を待つて支援している。
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	・日常会話の中でも、できるだけ利用者さんが考え答えられる様な問い掛けを行いながら、思いを引き出し、それに向けた支援を行う様にしている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	・出来るだけ自由に選択出来るように、時間に余裕を持って食事や就寝等も声掛けを行っている。入浴に関しては時間帯は概ね決めてしまっているが、入浴の可否は確認している。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	・日常会話や日常生活の中で気付いたひとりひとりの強みや輝きをシートに残し、その情報を共有しながら働きかけや雰囲気づくりを行っている。			◎	「今日のごぼうは皆が準備してくれたんよね」「〇〇さんはべっぴんやから」などと話しかけ、一緒に笑って過ごしている。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	・意思表示の難しい利用者さんは、その時の表情や仕草など、細かな変化を読み取りながら、本人の意向の確認を行っている。				掃除や洗濯、台拭きやお盆拭きなどを行う場面づくり、お礼の言葉を伝えている。
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	・毎年個人情報の取り扱いや虐待・身体拘束防止についての研修を行いながら、個人の権利や尊厳について、ミーティングなどで確認している。	◎	◎	◎	法人内研修で勉強をしている。テレビの前を通る時に「前を失礼します」と断ってから通っていく職員がいた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	・介護の方法も、出来るだけ利用者さんの思いや、その人にあった方法を考慮しているが、介護者が少ない時に一度に介助を必要とする場合などにおいては、待たせたり職員主体に介護してしまう事がある。			○	利用者のそばで声をかけていた。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	・気を遣う方などには、排泄中は外で待機し、終わった後に声掛けしたり、入浴時も同様に声掛けしながら、その時の気分や介護に対する思い等を確認しながら、支援するようにしている。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	・居室に出入りする時には、必ずノックしたり、利用者さんによっては、入室の許可を頂いてから入室するように心がけている。			◎	入室前に、「〇〇さんお部屋を見せてもらっても良いですか」と本人の許可を得ていた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	・毎年個人情報の取り扱いやプライバシー保護についての研修を受け、守秘義務の徹底周知を行い、公私を問わず、情報の取り扱いには気を付けている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	・日常的な関りの中で、個々のできる事をお願いし、お礼の言葉を伝えることで、役割意識が持てるような働きかけを行っている。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	・一人ではさせられている感や孤独感を感じやすい観点から、出来るだけ少数人数でも、みんなが輪になって関わり、お互いに思いを伝え合えるようにしている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	・日常生活の期間が長くなると、個々の居場所がついて固定してしまいがちになっているが、その場所が壁々として居心地が良いのか悪いのかを職員が話し合い、席替えや声掛け誘導を行う様にしている。			△	入居間もない利用者に声をかけてくれる人や、食事がすすむように言葉がけしてくれる人もいるが、ひとり離れた場所で過ごす人も見られた。様子を観察しながら、本人の無理のないように共同生活に馴染んでいけるような支援の工夫を続けてほしい。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	・少し不満をぶついたり、口論となった時には素早く間に入り、仲裁したり、お互いの思いを確認しながら、協力し合い仲良く過ごせるような環境作りを心掛けていく。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	・家族構成や家族の関わり、親戚や友人知人等、本人を取り巻く人的環境についてスタッフ間で情報の共有を行い、本人にとって良好な人間関係が保てるよう心掛けている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	・地域との関係や今まで生活してきた地元での役割や、生活の中で本人が大切にしてきた役割など、家族や地域の方々に情報を頂きながら現在でも色々な情報を共有できるようにしている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	・「昔は〇〇をしていた。」等の情報を大切に、出来るだけ今まで参加していた地域行事や住み慣れた場所での生活環境を大切に、出掛けたり行事への参加も積極的に行っている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	・面会はもちろん、事業所主催の夏祭りやマンドリンコンサート等の行事の案内を行ったり、逆に地域行事へも積極的に参加している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	・本人の体調やその日の気分を確認しながら、天候の良い日には毎日散歩に出掛けたり、ドライブや花見、地域行事にも積極的に参加している。	◎	○	○	お天候の良い日には毎日散歩に出かけられるよう支援している。 今年は「花が見たい」との希望があり、広島県まで日帰りてチューリップを見に出かけた。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	・認知症サポーター等の協力は未だ積極的に行っていないが、地元の小・中・高生が認知症について学び、最終的に施設での交流を行っている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	・車椅子でも、他利用者さんと一緒に車で出かけた後、重度・軽度を区別せず、みんなでも外出できるようにしている。			◎	車椅子の人も外で過ごせるよう、散歩など支援している。
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	・家族やスタッフが協力し、日帰り旅行で他府県へ出かけている。(4/24世羅高原農場のチューリップ祭りへ家族と一緒に出掛ける)				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひととき、取り除くケアを行っている。	○	・毎年、認知症についての研修に参加している。他利用者や特定の職員に対し不満を持つ利用者さん等には、無理にいかわりを持たず、スタッフが交代しながら、本人にストレスを感じない様にしている。				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上を図れるよう取り組んでいる。	○	・その日その時の本人の様子を確認しながら、無理強ひせず、レクリエーションや散歩、楽しい雰囲気の中で、適度に身体を動かし、身体機能の低下を予防できるように気を付けている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	・排泄や入浴、日常生活動作については、まずは自力で試みてもらい、難しかったり戸惑っている様子が見られると、少しずつ介助するようにしている。	◎		◎	昼食後の口腔ケア時には、声かけしながら見守り、できることは行えるよう支援している様子がみられた。
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	・ひとりひとりの得意な事や強みを、日常生活の中から読み取り、スタッフ間で共有し、一緒に手伝ってもらいながら、本人の役割意識を高め、楽しみに変わるような声掛けを行っている。				
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	・ひとりひとりの強みや得意な事を、他の場でも生かせるよう、日常的にできることを探し、スタッフが一緒になって取り組む等、本人主体で取り組めるようにしている。	◎	◎	○	洗濯物たたみや草引き、お膳拭き、野菜の皮むき、フロアの掃除なども行えるよう支援している。 数人の利用者で洗濯ものをたたんでいる様子がみられた。
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	・地域行事へ参加した時等、「自分も昔はよくしていた」と言われるが、それ以上積極的に中に入ったり、参加は本人が拒否したり消極的となる為、それ以上はすすめていない。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	・朝起床後、洗面の後に化粧水をつけている方やトイレに行った後に鏡を見ながら整髪に気を付けられている方等、個々の身だしなみについて、本人の思いをそのまま受け入れ、納得できる様に支援している。				
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	・外出時の衣類や帽子等、居室で職員と一緒に本人の希望を優先しながら選んで頂いている。自分で意思表現しにくい方も、家族から好きだった色や雰囲気等を確認している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	・家族から、事前に昔の情報や意向について等確認しながら、出来るだけ本人の思いに添えるようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	・季節に応じた衣類の調整については、家族が定期的に衣替えをしてくれる方もいれば、職員が時期や気候を見ながら、本人と相談し、その時々にあった服装を相談・検討している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたり、口まわりをきれいに保てる。(髪、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	・エプロンが必要な方も、食事の直前に付けて頂き、食後は直ぐに外したり、頭髪や衣類の汚れ等も、職員が気を付けながら、起床時や外出前には声掛けし鏡の前で整容を行っている。	◎	◎	○	外出前には鏡をみながら自分で整えられるよう支援している。くしは、利用者が取りやすいように洗面台の低い位置に用意していた。
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	・本人が通い慣れた理美容院を可能な限り選択している。特にこだわりや馴染みのお店が無い方には、施設に訪問してくれる理美容院にお願いし、本人が望む髪型を確認しながら散髪している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	・季節に合った服装や、家族にも定期的に確認しながら、本人が好む色や形、整容についてもアドバイスを頂き、出来るだけ本人の希望に添える様にしている。			○	毎朝、本人に聞きながら好みの服に着替えられるよう支援しているようだ。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	・食べることの大切さや、咀嚼・嚥下が及ぼす影響、誤嚥による様々な症状の発生などについて、機会があれば研修を受け、職員間で共有している。				献立は1ヶ月ごとに、敷地内にある3介護事業所輪番で作成しており、食材は配達を利用している。寿司をつくる時には、利用者が具材を作ったり、巻き寿司を巻く場面をつくっている。食後にテーブルを拭いている利用者の様子がみられた。 郷土料理のもふりをつくる日もある。利用者の希望があれば、献立を変更することもある。 食器類は事業所で用意したものを使用している。利用者の状態に応じて軽いものや取っ手が付いたものなどを用意している。 職員は同じ食事を食べながら、食材の話などして支援していた。 台所から調理する様子がみえたり、においがしたりし、重度の人も待ち遠しくなる環境がある。食器を食べやすい位置に移動して支援していた。 毎月、3事業所の代表者が集まり、食事に関することについて話し合いを行っている。年3回、各5日間の食事内容をもとに、栄養・カロリー摂取状況を確認している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに行っている。	○	・献立は季節に合った食材から、スタッフが作成している。そのメニューについても、状況や希望に応じて変更したり、調理や片付け等は利用者と一緒に行っている。			○	
		c	利用者ととも買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	・一緒に買い物(おやつや食べたいもの等)に行ったり、調理や片付けを手伝って頂きながら、役割意識が持て、達成感や充実感が得られるよう、声掛けや誘導に気を付けている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	・入居時や随時、本人や家族から嗜好について確認している。食べなかったものも食べる事が出来たり、摂取量にむらは見られる方もいるが、全体的に好き嫌いやアレルギー等も見られない。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	・献立に関しては、事前に季節に合った旬な食材を使う等、スタッフが考えている。その献立表を基本に、食べたいものの希望があったり、御祝や行事に合わせて随時変更している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりと器の工夫等)	○	・出来る限り、自分の口で美味しく食べて頂く為、安易にミキサーや刻み食にはしていない。一口サイズに切ったり、硬いものを取り除く等の工夫は行いが、基本見た目も楽しみながら、食べて頂ける様になっている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	・出来るだけ持ちやすい軽い物や、深さ、食べやすさも考慮している。また機能面以外にも、目で見て食事もしめる様に色や柄等も工夫している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	・その日の勤務によって、作った食事を利用者さんと同じテーブルを囲み、同じものを食べながら、利用者さんに注意を払い、様子を確認しながら必要時には支援している。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	・自分で見て食べる事を大切に、介助が必要な方でも、その方のペースや嗜好を大切に、職員のペースにならない様に声掛けしたり、必要時には介助している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通して確保できるようにしている。	○	・利用者個々の嗜好や摂取量を把握し、事前に量の調整等を行っている。一食摂取量が減ると、健康状態を確認し、異常ない場合には次の食事摂取量が適度に確保できる様、声掛けしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	・食事摂取量が少ない場合には、10時、15時のおやつの内容や量も調整しながら、適度な栄養バランスを保ったり、水分補給も1回量が少ない場合には、回数を増やしたり、タイミングを変えている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	・定期的(4月、8月、12月)の3回／年、カロリー計算を行い、実際の栄養所要量を確認したり、定期的な受診時の検査などにより栄養状態を確認している。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	・食器は洗浄後高温で乾燥したり、食材についても火を通す調理を基本にし消毒効果が上がる様になっている。刺身や足の速い食材については、配達したその日に安全に摂取できるようにしている。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	・毎年口腔ケアについての研修に参加し、参加できないスタッフはミーティング等で研修内容の共有を行う事で、スタッフ全員が口腔ケアについて勉強する機会を確保している。				義歯の有無については記録して把握しているが、その他については、目視での把握となっている。 歯科受診時には、処置内容のメモを貰っており、申し送り共有している。 朝、昼、夕食後に口腔ケアを支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	・口腔内の状況(総義歯、部分義歯、自歯)の把握や、口腔ケアの仕方に合わせ、声掛けや誘導を行っている。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	・定期的に内部研修などで取り入れ、口腔ケアの仕方や知識について深めている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	・自力で可能な方には、声掛けや見守りを行い、必要な方には洗浄剤で定期的に消毒したり、口腔内の清潔が保てるようにしている。				
		e	利用者の力を引き出ししながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	・食後は基本的に口腔ケアを行っている。生活習慣の中に口腔ケアの週間のない方にも、必要性について説明しながら口腔内の清潔が保持できるようにしている。必要があれば歯科検診を受け、治療している。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのまにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	・随時口腔ケアを行いながら、異常があれば歯科検診を受け、必要があれば治療を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	・おむつの使用については、排泄ケアの最終手段と言う認識をスタッフ全員が持っている。しかし紙パンツやパットを使う事での安心感が何より強い場合には、プライバシーに配慮しながら支援している。				家族の希望や本人の希望を聞き取り、カンファレンス時に排泄用品の使用が適切か話し合い支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	・便秘に対する症状の出現や、便秘が及ぼす全身症状の出現などについても理解し、排便状況を確認したり、便の性状などの観察なども随時行っている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	・個々の排泄パターンや、排泄時の自立度などを把握し、定時にトイレ誘導したり、排泄時に出来ない部分の援助（パットの汚れの確認や交換等）を行っている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	○	・その時々々の排泄状況を確認しながら、利用者本人が安心して、気持ちよく過ごせるように紙パンツやパットの性状や吸収量、使用具合等も常に確認しながら調整している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	・泌尿器系に異常なく、夜間頻尿になる方や何度もトイレに通い、睡眠を妨げている状況が見られたりする場合には、日中の活動量を増やしたり、精神的不安の原因について、ミーティング等で話し合っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	・個々の排泄リズムを把握し、ケアチェック表などで排泄の間隔を確認しながら、トイレ誘導したり、トイレ通いの多い場合には様子を確認するため、一緒にトイレに入るなど、早めに声掛けや状況の確認を行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	・夜間帯の尿量が多くなる方には、吸収量の多いものを夜間で使用したり、日中は身体を動かすため、こまめにトイレ、動き難くないものを選択する等、個々の活動状況に合わせて選択も行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	・排泄能力に応じて、紙パンツでも薄い物を選んだり、パットも自分でトイレに行く方には、テープで落とさない様に装着できるもの等、ひとりひとりの状態に合わせて使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	・全体的に毎朝のスムージーや毎日の散歩、体操等で、自然にスムーズな排便が促せるようにしている。便秘気味の方には腹部のマッサージを行ったりしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	・入浴時間については毎日午後からの決まった時間になっている。入浴の回数については、好き嫌いにによって回数も調整している。時間帯や長さ、回数や温度についても随時確認しながら調整している。	◎		△	週2～3回午後から入浴を支援している。温度や時間は個人の希望に沿っている。今後はさらに、利用者個々の習慣なども探り、入浴を楽しむことができる支援を工夫してほしい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で行入浴できるよう支援している。	○	・入浴時間をゆっくり自分のペースでゆっくり入れる様に、ひとりひとりの入浴パターンに合わせて入浴して頂いている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	・介助も自分で出来ない部分のみの介助とし、見守り、時々声掛けしながら入浴状況の確認を行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	・入浴嫌いな方は、無理に入浴をすすめず、入浴以外の目的で脱衣所まで機嫌よく誘導し、結果本人も満足して入浴できるようにしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	・入浴前には必ずバイタルチェックと一般状態の観察を行っている。入浴可否の判断に迷う時には看護師と相談し、本人の状況を再確認しながら可能な場合には入浴している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	・個々の就寝時間や、夜間の睡眠リズムなどについて把握し、穏やかに睡眠できる様随時確認している。				昼間はほとんどの利用者が居間で過ごしている。夜間頻尿で睡眠が十分取れていなかった利用者については、泌尿器科医と相談しながら薬剤も使用しつつ、安眠できるよう支援した事例がある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	・夜間トイレに頻回に通い、日中の午睡が目立ったり、夜間巡視の度に開眼している利用者さんについては日中の活動量を増やしたり、昼夜逆転を予防している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	・睡眠については、今の所薬などを使っている利用者さんはおらず、眠れない時には座って話をしたり、眠たくなった表情や動作を確認し、居室に誘導したり、自然に入眠できるように気を付けている。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	・食後、マッサージ機で休んだり、自分のペースやタイミングで個室し、ソファやベッドに横になったりしながら、ひと息つける場所を確保している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	・家族から、平日ほぼ毎日電話（預かっている携帯電話に）がかかってきて会話したり、荷物と一緒に手紙を送ってくれている。自分の誕生日に娘に手紙を書きたいと、一緒に手紙を送ったりしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	・家族から連絡があった時には、本人と変わったり、電話口で会話が聞き取りにくい時には、スタッフが間に入り、会話の繋ぎ役をしたりしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	・本人からの希望や、家族が電話口で話したいと希望があれば自由に会話してもらっている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	・届いた手紙や葉書は、本人に手渡し、読みにくい方には代わりにスタッフが読んで聞かせ、その時の感想や出た言葉をそのまま本人が可能な場合には電話で伝えたり、難しい方は職員が代弁する等、対応している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらったとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	・本人、家族の希望を出来るだけ尊重し、希望があれば連絡したり、荷物が届く等、何らかのきっかけがあれば、本人に電話口でお礼を言ってく等、かかわりが持続続けられるようにしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	・お金を自己管理している方は、自分の希望で日用品などの買い物を行っている。神社の参拝やお大師詣り、行事への参加時必要時には、個々でお賽銭や現金を持って頂いている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につづけている。	×	・現在、定期的に現金での買い物は行っていない。契約している商店での、後払いにより必要なものを買いに行くなどの機会はあるが、金銭の支払い等は行っていない。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	・近所の商店には、食材や必要な日用品の配達などもお願いしているが、買い物の機会を作る意味での協力は得ている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	・現金を持っている事で安心されている利用者さんには、随時所持金額を確認しながら続けて持って頂いたりしている。自己管理出来る方は、得に制限なく持ってもらっている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	・紛失の恐れがあるという事から、多額の現金は持ってもらわず、本人が不安がない最低の額などを家族と相談し、必要な方は諸事金額等も随時確認しながら、持ってもらっている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	・日用品や医療費に必要な支払いがある場合に、直ぐ支払いが出来るよう、取り扱い規程に基づき、契約のもと現金を預かり管理している。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	・毎月モニタリングを行いながら、必要時には家族とサービスの利用状況について相談し、急を要する場合には迅速に本人・家族と検討し、本人に不安を与えない様に柔軟にサービス内容の変更を行っている。	◎		×	現在、取り組んでいるような事例がない。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	・通常の出入り口となっている玄関はできるだけ開放(日中は扉も開けたままに)し、入りやすいようにしている。	◎	◎	◎	玄関先には花のプランターや花鉢を配しており、生け花なども飾っている。 スロープを設置して、車椅子の人も出入りやすい。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気をもっており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をもてよう設えになっていないか等。)	○	・季節に合わせ、壁にみんなで作った手芸の作品を並べ、季節感を持って頂いたり、5月人形やひな人形、皆の写真を掲示している。	◎	◎	◎	古民家を移築した事業所で、柱や梁が見えて天井が高い。 足踏み式ミシンを置いている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	・毎日フロアや各居室、トイレやその他台所や畳台等の清掃を行っている。また毎月の衛生委員会、環境整備についてチェックしてもらったり、常に気を付けている。			◎	天窓があり、自然光を採り入れている。 職場巡視チェックリストに沿って、週に1回環境チェックを行っている。 衛生管理者を中心に月1回話し合い、確認を行っている。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	・季節に合った生花をテーブルの上に飾ったり、毎日の新聞の読み聞かせを行い、その記事に対し感想を聞く等、色々な刺激を掛け掛けながら、考え意見を話すきっかけづくりを行っている。			◎	毎朝、新聞の季節感のある記事を話題にして会話を 楽しむ時間をつくっている。 テーブルや洗面台などには、利用者が季節の花を生けている。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	・ひとりひとりが居心地の良い場所として、その時間が確保出来、自分の心地よい居場所として過ごす事が出来る場所がある。				壁には紫陽花の貼り絵を飾っていた。
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	・トイレや浴室(脱衣所)には扉があり、プライバシーを守る為、見えない様に工夫している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	・出来るだけ居室が馴染みの空間に近付けよう、使い慣れたものを持ってきたり、全体の居室の配置も、自宅の居室に近付ける様にしている。	◎		◎	床に布団を敷くなど、ものの配置なども自宅での生活と同じように配慮している。 夜間使用するため電気スタンドを置いている人もいた。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	・日頃、見える場所で食事の準備を行い、洗濯物もその時の気分や調子で手伝って頂いたり、その他作業も自分の意志で参加しやすい環境作りを行っている。			○	自分でトイレの場所がわかるように、廊下の壁に大きく「トイレ」と表示していた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	・物を置くと混乱する利用者さんには、出来るだけシンプルな環境を提供したり、身近に置くと落ち着くものには、危険が無いような配置を考慮しながら、随時検討している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	・掃除用具等は倉庫や見えない所に、調理道具等は台所へ、フロアには新聞や手芸道具等は置いているが、ポットや急須も台所にある為、なかなか直ぐに手に取れる位置に置いていない。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきりめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	・夜間帯以外は玄関には鍵を掛けず、自由に入出入り出来る様にしている。隣の施設とも、特別の理由(感染症対策やカラオケ、風邪の出入り等)が無い限り扉を開放し、閉塞感のない生活環境を提供している。	◎	◎	◎	内部研修のカリキュラムに取り入れ、年1回は勉強できるように取り組んでいる。 また、必要時には、ミーティング時にも話し合いを行っている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	・基本的に施設は拘束に当たり、自由を束縛する行為として原則出来ない事を家族へ説明している。他の方法が無いが十分に本人・家族と相談し、自由な環境の中での安全確保の方法を探るようにしている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	・玄関前に事務所があり、台所もあり、何気なく外へ出ようとしている時にはスタッフが気付く事がほとんどである。その為夜間帯以外は施錠することなく、天気の良い日には扉も出来るだけ開放している。				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	・利用者個々の心身の状態について、概ね把握できている。また利用者の一覧表をみんなが確認できる場所に置き、常に見る事が出来る様にしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	・毎日のバイタルサインチェックや一般状態の観察を行っている。日々の記録(食事摂取量・排泄状況)異常時は個別の体温表に記録したり、ケア記録に経過を記載している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	・主治医によっては夜間や休・祝日については対応が難しい病院はあるが、中には主治医と携帯電話で指示を仰ぐことが出来る病院もあり、看護師が必要時主治医に指示を仰ぐことが出来る様な関係を築いている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	・基本的には通い慣れた、行きつけの病院で引き続き診察や与薬を受けられるようにしている。特に指定が無い場合でも、本人や家族に選んで頂けるよう配慮している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	・体調を崩したり、医師の診察が必要と判断した場合でも、本人や家族へ適宜相談しながら、本人・家族の意向を尊重し受診・往診して頂いている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	・看護師が診察や検査が必要と判断した場合でも、必ず本人や家族へその旨伝え検討して頂きながら、結果も随時報告しながら情報の共有を行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	・入院に関して、必ずその場に立ち会い、医師や看護師に性格的な面や日頃の過ごし方等、必ず口頭で伝える様になっている。また、随時入院状況を確認しながら、必要な情報の提供を行っている。				
		b	安心して治療できるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	・地域医療連携室や病棟看護師、主治医等と随時連絡を取り合いながら、入院状況の把握や退院に向けての相談を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	・常日頃から主治医との連携や看護師とも連絡を取り合いながら、病状の確認の他に、以後の病状の変化に対応できるように助言を頂きながら、関係性を良好に保っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	・日頃から、利用者の心身の状態に異常があれば、看護師に連絡し適切な指示を受けたり、必要があれば看護師が実際に適応を確認し、必要があれば主治医へ相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	・非常時は、看護師への温コール体制が整っている。看護師がスタッフからの状況報告に対し、指示を伝えたり、必要があれば実際に状況を確認しながら対応している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	・毎朝、全員のバイタルチェックを行っている。排泄状況や食事の摂取状況も常に記録し、健康状態の把握を行いながら異常の早期発見・対応を行えるようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	・看護師は全員の服用している内服薬や副作用について再三確認する様心掛けている。また他スタッフもいつでも、内服薬の内容等も確認できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	・利用者個別で内服薬も管理し、名前や服薬のタイミングに合わせて色で区別したり、名前を明記する事で、誤薬を予防している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	・定期処方薬に関しては看護師が薬効や副作用について、定期的に確認を行っている。新しく処方された内服薬については特に副作用の出現などには気を付けて確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	・服薬している薬についても、みんなで副作用や飲み合わせの悪い成分、また薬効についても、必要があれば看護師からスタッフへ周知できるようにしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	・現在、入居中の利用者さん家族には、重度化した場合や定期的な医療処置が必要となった場合、緊急時などに対する対応について、方針を説明し、意向の確認を行っている。				「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って説明し、同意を得ているが、家族の中には十分な理解に至っていない人もいる。 評価に当たっての家族アンケート結果なども参考にしながら、利用者や家族とともに方針を共有できるように取り組みをすすめてほしい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	・重度化した家族や主治医の協力が得られ、本人・家族の意向を尊重しながら、「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って説明し同意を得ている。	○		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	・看取りに関する研修を受けながら、終末期ケアについての受け入れ態勢を整えているが、まだ力量が不十分な為、看取り加算は算定していない。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	・初回契約時や随時、事業所で出来る事や出来ない事について家族に説明し、出来るだけ本人・家族の意向に沿えるように心掛けている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	・利用者個々の健康状態について、主治医や家族と情報の共有を行いながら、必要時連携が取れる体制が取れている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	・本人はもちろん、家族の意見も尊重し、家族の思いや希望を随時確認しながら、出来るだけ意向に沿えるように支援させて頂いている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	・毎年感染症対策についての研修へ参加し、感染症が蔓延する時期に、持ち込まず広めない対応を心掛けている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	・感染症対応マニュアルに基づき、感染症が発生した時の対応や広めないための対策について、研修などを通じてそれぞれの役割などについて整備している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	・保健所や行政からのメールや主治医などからも流行っている感染症などの情報を確認しながら、スタッフ全員に注意喚起を行っている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	△	・保健所や行政からのメールや、学校や病院で流行っている感染症、ニュース等での情報を収集し、スタッフ全員に注意喚起を行っている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	・職員は出勤の時と外出から帰った時、また利用者の排せつ介助などに携った場合はその都度流水で手指の洗浄や消毒を徹底している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	・行事やイベント、何気ない日々の様子等を電話やメールで知らせたり、2ヶ月に1回はお便りを送付し、担当者がそれぞれコメントを送り日々の様子を知らせ、情報の共有を行っている。				夏祭り、誕生会、クリスマス会などには家族に案内を出し、参加を得ている。 今年は家族と一緒に日帰りのバス旅行を楽しんだ。 2ヶ月に1回、「ゆいの里だより」を発行し、事業所での生活の様子を知らせている。 併せて、担当職員が利用者の暮らしについてコメントを書き同封している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	・面会や出入りは自由に制限は設けていない。来所時には日頃の様子を伝えたり、家族とも日常会話をしながら、信頼関係の構築を行っている。飲み物や帰り際には、「また来てください」等、次回も来所しやすい雰囲気作りに気を付けている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	・例年夏祭りやクリスマス会には家族の方にも一緒に参加頂いている。今年度は家族も一緒にバスで日帰り旅行を行う等、行事に家族も一緒に参加する事で、同じ時間を楽しく過ごして頂いている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	・2ヶ月に1回のお便りの発行では、担当者が利用者個々の日々の様子をコメントにして、送付している。必要時には電話やメールで近況を伝えている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	・電話やメール等で連絡を行う時には、家族の意見を確認したり、毎年1回は、家族アンケートを匿名で実施し、意見を確認する機会にしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	・家族会等で、認知症に関する勉強会をしたり、認知症サポーター養成講座等の案内も行いながら、認知症に対する理解を深めて頂きながら、より良い関係性が続くように心掛けている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	・毎年年度初めに職員の紹介をお便りでお知らせしたり、行事などもお便りや、必要時にはその都度連絡しながら情報の共有と参加の確認を行っている。	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	・毎年夏祭りやクリスマス会では、家族もたくさん参加頂き、家族同士で交流して頂ける場になっている。家族会でも、お茶を飲みながらフリートークの時間を設けたり、イベントの中でも家族同士でゲームに参加する等の交流の機会を作っている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	・ミーティング等で話し合った意見について、改善策を家族に説明し、本人の事を優先的に考えながら、実際に行うケアについては、本人・家族に選んで頂けるように確認を取っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	・定期的に来棟される家族には、来棟時近況の報告をしたり、不定期でなかなか来棟の機会が少ない家族には、行事の参加や季節の衣類などの調整の際に連絡を行い、近況報告と色々な相談やお願いを行っている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	・変更のあった書類を確認頂きながら、説明を行い、内容についての質問は常に受け付けている旨伝えながら、同様の資料を一部減している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	・本人、家族の希望を優先し、現状の心身の状況を考慮したうえで最良の退去先についての相談・支援を行っている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	・料金改正についてはその都度文書による説明を行い、同意を得て一部交付している。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	・見学や施設の説明に関しては、自由に出来る様、全戸配布の支部便りや民協や老人クラブ等の定例会で説明を行っているが、なかなか来棟される方も少なく、理解を図っているに至っていない。		◎		大三島町から敬老会の案内があり、出席できるよう支援している。 地域の祭り見物に行けるよう支援しており、知り合いの人から声をかけてもらうこともある。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	・個々の住み慣れた地域行事へ参加したり、事業所では夏祭りや避難訓練、ふれあいフェスタ等を通じて、地域の方々との交流の機会を作っている。保健センターや福祉センターへも利用し、他の利用者との交流も行っている。		◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	・少子高齢化、過疎化の進行により、なかなか地域を支える力不足(人数不足)が懸念されている。ボランティアで見守りや調理の手伝いや地域ネットワークを生かした活動が増えている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	・事業所は誰でも気軽に入れる様、出来るだけオープンな環境作りに気を付けている。スタッフの孫や子供が遊びに来たり、民生児童委員会や、時にサイクリングの方やトライレを借りに来るなどの機会もある。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	・近所の住民に協力を頂きながら行う消火避難訓練では、施設の見学や車椅子講習など、利用者さんとも関わりながら実施できているが、日常的な付き合いは少ない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	・現在ボランティア活動に関しては昼食ボランティアや学生ボランティアで、利用者個々の生活に密着した関わりは持ちにくい。消火避難訓練時には近隣の住民の方々の協力を頂き、安全に避難誘導できている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	・地域の祭りやイベント等へ参加したり、夏祭りやコンサート等で地域の方々をお招きしたり、毎日天気の良い日には散歩し、他の棟の友人や知人と交流されているが、すべての利用者本人が心身の力を発揮する事が難しい。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)	○	・同敷地内の他棟と連携しながら、落ち着いた利用者さんの安否確認を行ったり、近所の商店では、一緒に好きなおやつやお菓子を購入しに行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者が家族、地域の人等の参加がある。	△	・地域の方々の参加はあるが、メンバーが固定化している。家族にも案内させて頂くが、仕事や用事の都合が合えば参加頂いているが、毎回の参加には至っていない。	○		○	地域の人や利用者の参加はあるが、家族の参加が少ない。 家族に運営推進会議の目的や意義などを伝えて、参加を働きかけをしてほしい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	・会の中で、利用者さんの状況報告や行事・イベントの報告、避難訓練や外部評価の報告等は随時行い、意見を頂く様にしている。			○	会議では利用者の状況、ヒヤリハット報告、行事報告などをしている。外部評価実施後には結果を報告している。
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	・参加頂いた方からそれぞれ意見を頂き、以降のサービスや会の運営に生かすようにしている。また、施設内の見学や勉強会なども取り入れ、よい見いサービス提供に結び付けられるようにしている。		◎	◎	避難訓練参加者から「誘導の方法が分からない」との意見があり、誘導方法を示したシールを居室前に貼る取り組みにつなげた。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	・災害訓練の時には防災士の方の意見を確認したり、それぞれの参加しやすい時間帯や、次の開催日時についてその場で相談する等、出来るだけ多く方に参加頂ける様に配慮している。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	・玄関に運営推進会議録を誰でも閲覧できるように置き、案内している。内容については特段変化のある事に関しては家族へも口頭で連絡したり、文書を送付する等公表している。				
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	・玄関を入ったと所に大きく掲示し、職員が常に理念を確認できるようにしている。毎年、年度初めのミーティング等では改めて理念の再確認を行ったり、振り回りの時間も設けながら理念に沿ったサービス提供を心掛けている。				
		b	利用者が、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	・面会や来所された時に誰でも一目で見える様に、事業所の理念を掲示している。新規の利用者さんや家族には、必ず理念の説明を行っている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	・年間予定が組まれている研修については、以前まで参加した研修と重複しない様に、また職員個々が望む研修へ参加している。また参加した研修については、後日ミーティングで他スタッフへ報告し、共有・周知を徹底している。				年1回アンケートを行っており、該当職員については、産業医のカウンセリングを受けるしくみがある。 職員の忘年会や慰労会、旅行などを実施している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	・それぞれの役割や、勤務状況等を確認しながら、ミーティング等でひとりひとりの個性や特性を生かした、話し合いが出来る様に進んでいる。答えを自分で導き出し、実戦で生かせるように取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	・処遇改善については、積極的に意見を取り入れ必要箇所については迅速に改善してくれている。また、毎年全体研修を通じて、ひとりひとりのやる気を向上させ、結果全体の士気が向上している等の効果も見られている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	・全体研修や、懇親会を定期的に開催したり、認知症サポーター養成講座の開催等、事業所同士での共同の場を作り、職員同士の交流や意見交換の場として利用し、意識改革や向上を目指し取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	・処遇改善の備品などの整備や、相談窓口なども設ける等働きやすい職場環境を整えたり、ストレスに関する研修なども取り入れ、それぞれが持つストレスの緩和に努められる様に心がけている。	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	・毎年内部研修や外部研修で、虐待防止や身体拘束についての研修を必ず実施し、受けている。受講した職員はミーティングで他のスタッフへ内容を伝え、職員全員が周知・徹底できるようにしている。				その場で注意する必要があるときには個人に注意し、全体で話し合う必要があるときには、ミーティングで話し合うことになっているようだ。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	・ミーティングで全体の意見を確認したり、休憩時間や普段の日常会話などから、日々のケアについての方向性が間違った方向に向かない様に、随時確認している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	・ヒヤリハットや事故報告書、普段のケアの中に不適切なケアや利用者の人権侵害に当たるような行為や声掛け等が見逃されぬ様にスタッフ全員が気を付けている。また発見した際の対処についても毎年研修を受け理解している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	・スタッフの利用者に対する声掛けや態度、普段の気付き等の変化を感じ、必要時には声掛けしながら、ケアに直接的に影響が少なくなるように心掛けていく。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	・代表者や管理者においては、指定基準を理解し、適切な運営が出来る様配慮できている。しかしすべての職員の理解については出来ない。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	・毎年の研修をもとに、ミーティング等で身体拘束の基準を再度見直し、身体拘束や虐待防止に努められるように心がけている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	・家族が望むケアが、身体拘束や虐待行為にあたりと判断した場合には、家族にその旨説明し、他の方法や手段が無いか今一度相談し検討するようにしている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	・管理者は、権利擁護の必要性があると思われる方に対する対応の仕方や相談窓口については理解している。しかしスタッフ個々に関しては、研修には参加しているが、十分な理解に至っていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	・独居生活で身寄りのない方が、今後認知症の進行に伴い適切な判断能力に欠けた時等の様に、必要があると判断した場合には、その状況の説明や必要なサービスの相談や、専門相談窓口等の案内を行う等の対応を心掛けていく。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	・常に地域包括支援センターや相談課、その他必要な機関との連携体制については、迅速に対応できるような体制作りが整っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	・緊急時対応マニュアルを整備し、毎年緊急時対応の内部研修を実施、受講しながら、緊急時冷静に判断・対応が出来る様に心がけている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	・緊急時対応における初動方法等、毎年内部研修で実施しながら、現場で直ぐに役立つように、職員全体で周知徹底を行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	・事故報告書、ヒヤリハット・インシデント報告書の他に、ヒヤリハットまでではないが、もしかすると大変な事故につながるかも知れないかんたんハット等も、職員個々が気を付けみんなで周知徹底を行いながら、事故の未然防止に心掛けている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	・利用者個々のリスクマネジメントを定期的に行い、職員全員が周知し、危険箇所について出来るだけ除去し、安全な環境を整えられるように心掛けている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	・苦情対応マニュアルについて整備し、苦情があった場合にはどのように対応すればいいのかという事については、管理者は理解し、適切な対応が出来る様配慮している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	・苦情対応マニュアルに沿って、適切に取り扱い、解決に向けた対応が出来る様にしている。相談窓口も一力所ではなく、市や県の窓口も玄関に掲示したり、初回契約時には口頭で説明している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	・苦情対応マニュアルに沿って、頂いた苦情にたいして、迅速かつ的確・丁寧に対応し、納得頂けるような解決方法の提案や相談を行いながら、前向きに話し合いが出来る様に心がけている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	・毎年、事業所からの利用者用と家族用のアンケートを実施し、アンケート結果については集計し、事業所長・代表者を通じ、より良いサービス提供が出来る様になっている。また面会や電話口で、随時サービス内容を確認しながら意見も頂く様にしている。			◎	年1回アンケートを実施し、集計をしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	・毎年匿名でアンケートを実施し、頂いた意見をもとにより良いサービスが提供できるように心掛けている。来所時や電話口では要件を聞き伝えし後は、何かご意見が無いかどうかの確認は行っている。	◎		◎	年1回アンケートを実施し、集計をしている。 来訪時には、要望や意見がないか聞いている。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	・初回契約時には必ず紹介しているが、それ以降の公的な苦情受付窓口の紹介は行っていない。出来るだけ最初の窓口になれる様に、家族との関係作りには気を付けている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	・毎年1回定期的に面接を行い、職員個々の意見や要望・提案事項等を確認している。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	・出来るだけ職員との交流の時間も作り、意見や要望・提案等を伝えやすい雰囲気づくりを心掛けている。また出た要望や提案については迅速に対応する事で、職員個々の達成感や満足感を感じて頂ける様に心がけている。			○	日々の中で聞き取ったり、ミーティングで話し合ったりするようだ。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	・毎年、職員個々で行った自己評価を集約し、事業所として一つの自己評価表を完成させている。				報告は行っているが、モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	・自己評価を集約する際、事業所としてどういう状況で、どのようにすれば改善されるのかという所までの相談は行いが、実際に具体的な改善計画作成まで至っていない。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	・毎年自己評価を実施し、外部評価を受けた後の改善項目などの検討についても、職員同士で相談したり、全員で取り組み、改善できる計画を立てている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	・評価結果について、達成計画をみんなで相談し、今後の取り組みについて、家族へ送付したり、運営推進会議のメンバーには報告し、意見を頂いている。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	・目標達成計画の具体的な内容に応じて、管理者が評価し翌年の自己評価には、実施状況の報告も兼ねて行う様にしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	・昨年度、風水害対策マニュアルの整備と避難訓練を実施。今年度は火災や災害訓練に並行して、防犯対策の一環で不審者対応の研修を実施し、実際に訓練を実施する予定である。				法人の他事業所、地域の消防団、地域住民、警察署の人などの参加を得て避難・消火訓練を実施している。 運営推進会議でも話し合う機会をつくっている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	・今の所、どの訓練も最悪なケース(夜間発生)を想定しての訓練を実施し、日中や人員が多い時は図上での訓練のみとしている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	・毎年、災害マニュアルの各点検項目に沿って、消火設備や避難経路、非常食や備品・物品の確認を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	・毎年6月第一土曜日と決め、地域や消防、行政や警察等合同での消火避難訓練を実施し、今年で第9回目になっている。	△	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	・毎年一回の地域合同消火避難訓練の他に、非常災害(土砂災害)時の避難訓練では、避難場所である地域の集会所を開放して、実際に総代さんも駆けつけてくれ、訓練の検証を行ったり、協力体制が整ってきている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	・地域の方々を対象に、認知症サポーター養成講座を開催したり、介護教室や内・外部研修においても認知症ケアについて積極的に参加し、知識と技術の習得を心掛けている。				毎月、利用相談が2～3件あり、地域の人の介護相談を受けている。 法人の行う「ふれあいフェスタ」では、職員が介護相談を受けている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	・施設の見学や相談については、定期的に広報やお便りなどで自由に行える事を発信し、電話や実際に来所された方については相談に応じ、必要な対応や助言を行っている。		○	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	・昨年度、敷地内の中央付近にあるハウスを整備し、冬場の温室として地域の方々にも自由に寄って頂ける場を開放した。老人クラブの方々と一緒にもちつきをしたり、暖かい中での食事会を開催する等、交流の場として利用して頂いている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	・介護ボランティアの受け入れや、地元小学校の職場体験、中学校のジュニアサポーター研修、高校生のボランティア等の受け入れを積極的に行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	・避難訓練を通じて、市役所や消防・警察、運営推進会議や地域ケア会議等で地域包括支援センターや市役所の保健師、病院の医師や看護師とも交流を持ちながら、連携体制を整えている。			○	